

令和7年度第1回石川県障害者施策推進協議会及び自立支援協議会議事録

日時 令和8年3月17日(火) 14:00~15:20
場所 石川県行政庁舎11階 11会議室

(司会：障害保健福祉課 井上課参事)

- 1 開会挨拶 塗師福祉部長
- 2 委員紹介 出席委員数が総委員数の過半数を満たし、協議会成立
- 3 報告・説明、質疑 議事進行：県医師会 安田会長

(1) 令和7年度の主な取り組みについて(資料1-①~④ 四木課長より説明)

○質疑応答・意見

<視覚障害者協会理事長 米島委員>

相談支援の体制を能登地区で作られて、非常に成果が上がっていると思われる。

実は視覚に障害のある方については、奥能登2市2町から委託を受けて、石川県視覚障害者協会では、毎年福祉相談会を開催していたが、能登半島地震発災以来開催ができない状況にある。そういう中で、視覚に障害のある方の相談事例も増えると思われる。

私どもも必要があれば現地へ赴いて、相談と一緒に携わる方も必要かと思っているので、ぜひとも視覚障害の方の相談事例があった場合には、一緒に取り組めるよう、連携を進めていただければ大変ありがたい。

優先調達の内容について、障害者種別、例えば視覚障害の関係のところの優先調達の事例はあるか。私ども昨年秋から災害時に備えて、災害に必要な食べ物として、缶入りのパンの販売を始めているが、これなどは先ほどの施設の防災の取り組みとも合わせて検討していただくことはできないか。実際に障害種別ではどのようになっているのか教えてほしい。

<四木課長>

奥能登の相談支援体制視覚障害者協会さんの方から視覚障害者からの相談についてご協力、連携いただけるということで感謝する。そういった事例が出てきた場合は協力させていただきたいと思う。

<地域生活支援G 酒井GL>

障害種別ごとの施設の受注の事例は実際に把握していない。まだデータとして持っていない。

視覚障害の方の防災計画に関する重要なお提案に感謝する。重要な御指摘だと思っている。

缶入りパンの備蓄品の採用とか点字ラベルの貼り付けといった件につきまして、私達障害保健福祉課は歓迎するが、危機対策課が担当している部分である。

実際に優先調達発注するとなればこちらは特定の施設に発注するよう指示はできず、どこに発注するかを選択権は当該部局に帰属する。

またそちらの方にも視覚障害者関連の施設がこういう仕事ができることを情報提

供していきたい。

<四木課長>

障害保健福祉課では、障害者就労施設で提供できる物品・サービスを毎年リスト化している。掲載することにより、利用が進むかと思うので活用いただきたい。

<視覚障害者協会理事長 米島委員>

実は今日実際のものを持ってきた。県だけではなく、今日ご参加いただいている委員の皆さんの関係のところでもぜひ目の不自由な人が作った商品を、施設の防災の一環として、備蓄の食料品として採用していただければありがたい。

既に2施設から注文いただいて、賞味期限が5年間なので、5年間継続して採用していただくという話もある、ぜひ委員の皆様のところでも結構ご検討いただきたい。関心がある方がいれば、今日持ってきているので、後ほどご覧いただきたい。

<聴覚障害者協会業務執行理事 藤平>

防災計画について、まず障害者団体に対して意見の募集をされる予定があるかどうか聞く。協会としては、希望が二つある。

まずは、福祉避難所について、県としてこれまで1.5次避難所を設けていただいた。私どもの協会としても2次避難所を白山市に設けてもらった。

聴覚障害者当事者が一緒に生活をするために、テレビに字幕をつけたもの、手話通訳のついたテレビ放送が見られるアイドラゴンでチューナーの設置までは至らなかった。

聴覚障害者専用の福祉避難所を設けてほしいとこれまでにお願いしている。3月27日に白山市において、福祉避難所を聴覚障害者用に私ども協会と白山市とで協定を結ぶことになった。場所は白山市のこがね荘である。

奥能登地域に聴覚障害者の特性に合わせた福祉避難所を作れるか、また様々な障害者の特性に合わせた福祉避難所を広域的な協定の中で設置ができるかご検討をいただきたい。

二つ目に、2年前の能登半島地震の際には、聴覚障害者当事者として、聞こえない聞こえにくい仲間の現状把握をしたいときに、奥能登4市町に対してできれば設置手話通訳者とともに現地を回りたいというお願いをしたが、行政職員に余裕がなく居宅訪問することはできなかった。

結果的には相談支援専門員協会が、安否確認と現状把握のために回ったが、私達としては、できれば障害当事者がピアサポートのようなことができたらという思いで、ろう相談員と相談支援専門員の方と一緒に回るということをお願いしてきた。

昨年の8月に障害福祉課に要望を出したその内容も含めて防災計画に盛り込んでいただければ心強い。

<四木課長>

障害者施設における防災計画作成指針につきまして、こちらは、検討委員会をこれまで開催してきた。そのメンバーには、障害者団体からは代表として田中委員にも加わっていただいている。パブリックコメント等もとり、最終発表するような段取りになっている。

ただ、福祉避難所についてお話されていたが、今回のこの計画は、障害者施設の対応についての防災計画作成ということで、福祉避難所については各市町で対応がなされるものである。

聴覚障害者協会からの要望も私どもの危機管理部門にも伝えさせていただいている。

2点目の要望についても担当の危機管理部門に伝えさせていただいている。

<県医師会 安田会長>

自然災害発災直後は行政職員自身が被災されているのでなかなか仕事はできないが、ある程度、落ち着いたら保健医療福祉対策調整本部が立ち上がるのでそこから市町の対応としてということ。福祉避難所の避難者の対応ということ。

<石川県社会福祉協議会専務理事 永下委員>

藤平委員の質問に対して、少しこころの落ち着く話題になるのかなと思うので加えさせていただく。

私は、オブザーバー委員として、福祉施設防災計画作成指針の高齢者、障害者、子ども、3つの委員会に参加した。

その3会議で共通して意見したのは、災害の発災時には、高齢者施設であっても、例えば障害のある方も子どもも来るかもしれない。逆に、障害のところが高齢の方も来るかもしれない。そういった形で、災害のときには施設の種別に関わらず、受け入れをせざるを得ないことも出てくると思う。

ぜひ私からは、それぞれの施設における平時のうちから高齢者施設であれば、障害者の対応に対する配慮、子供に対する配慮、要するに自分の種別以外の施設で配慮していることをお互いに情報共有をしておく。そうすれば発災時にその福祉避難所というふうになったとき、あるいは普通の避難された場所ということになったとしても、まず、そういえば向こうからこんなこと聞いていたよね、あるいは、あの災害が起きた後でもちょっと心配なんだけどってことで、平時のところ職員同士の繋がりがあ程度あれば質問ができる。

そういった関係性を訓練であるとか、日頃の平時の活動として、考えた方がいいのではないかとオブザーバー委員として発言をした。それで、ある程度県の方はその3施設種別それぞれで考えていただけるのではないかなと思っている。

(2) 石川県自立支援協議会相談支援部会の活動について(資料2 四木課長より説明)

○質疑応答・意見 なし

(3) 令和8年度の新たな取り組みについて(資料3-①~② 四木課長より説明)

○質疑応答・意見

<県立看護大学教授 塚田委員>

自殺危機対応チームの設置は素晴らしいが、石川県庁の中でも、他部署との横断的な連携があるのかどうか、健康福祉部だけでは解決できないような状況があると思われるので、ご質問したい。

全国のデータは分かるが、石川県の小中高の自殺者数の推移を教えてください。学校との連携具体的に今までの事業がありましたら教えてください。

<四木課長>

子供若者の自殺危機対応チームの設置について、資料3-2左下にチームの構成を書いている。県庁内の他部局との連携協力ということについては、もちろん教育委員会

とは、既に一緒に連携していくことを申し合わせている。

<医療支援G 白瀬GL>

本県の高校生の自殺者数について、これまで都道府県別の自殺者数というのは秘匿性が高いということで公表されていなかった。

しかし、子供の自殺が増加している背景を受け、令和6年の自殺者数から都道府県別が公表されることになり、令和6年の自殺者数は、石川県は3名ということになっている。

令和7年分につきましては、現在暫定値として全国の数字が出ているが、確定値が3月ごろ公表される。そして3月頃に確定値に合わせて、都道府県別の小中高生の自殺者数が公表される予定である。

学校との連携、これまでの取り組みについては、既に教育委員会と連携し、学校の教職員の方を対象に子供のSOSをキャッチするノウハウを夏休みの期間に研修している。

教育委員会以外では警察の少年課の方と連携し、小中高校生を対象に命の大切さを学ぶ勉強会を一緒にしている。

<県立看護大学教授 塚田委員>

どういったところでお亡くなりになるというのを、小中高校の方を全国規模のデータで見ると、高層ビルや駅構内、鉄道あるいは海とか河川っていうのが結構多いことがわかったので、何かそういったところとの連携が必要ではないかと思った。健康福祉部として教育機関と連携しているということで承知した。

<県医師会 安田会長>

全国統計が去年に比べ3人増えた。しかしながら、全年齢の自殺者は最少だった。秋田県では自殺が多かったが、厚労省のモデル事業でゲートキーパーを作り、自殺者数が減少した。

閉会 四木課長

今後しっかりと障害者福祉の施策に取り組んでいきたいと考えている。

以 上